

中学校技術・家庭（男子）講座

中学校技術・家庭科の指導の充実と向上をはかることを主眼とし、男子48名各2回（前後期）実施した。

特に電気領域と材料試験（木材と金属）を重点としながら内燃機関の整備実習、教材・教具の製作等について実施した。受講された先生方は非常に熱心に実験・実習・製作に取り組んでおられた。来年度は内容や運営に検討を加え、より充実した講座にしたいと考えている。

中学校技術・家庭（女子）講座

前期は5月、6月、後期は9月、10月と合計8日間にわたり24名の先生が受講された。前期は家庭電気教具製作と実験、調理時のビタミンCの損失、食品添加物の検出などについて、後期は家庭機械の機構と模型の製作、洗たくの科学、保育、すまいのくふうなどを実施した。先生方は、全員が極めて熱心でしかも研究的であった。来年度は各領域内容を精選し、指導法も加味したい。

中学校教育相談講座

本講座には、中学校の先生方30名が参加した。内容として、1) Y-G 性格検査法 2) 教育相談の問題点 3) 適応性診断テスト 4) 事例研究方法などである。

討議の中心は、登校拒否の問題であり、学校現場で苦慮している実態を知ることができた。今後は、登校拒否の治療より予防ということで、研究を深める必要を痛感した。

高等学校教育工学講座

本年度も、教育工学概論、授業のシステム化、教育機器の3つの柱で内容を編成した。

教育工学概論は、教育工学の第一人者である東工大の末武国弘先生の「授業改善と教育工学」の講義で、たいへん好評であった。教育機器については、学校の設備状況を考慮してVTRとOHPだけにし、それをコースに分けて1日通して実施した。余裕のある実習になった。

高等学校国語講座

国語科専門教員40名を対象とし、専門分野と国語教育分野の研修を目的として実施した。

専門分野は新分野の「国語表現論」（東北大・佐藤先生）、異色の「人間と言語」（外山先生）現代詩（福大・木村先生）の講義、国語教育ではグループによる教材研究、奥の細道散策と句会を新にとりいれ好評であった。とくにグループ演習は宿舎でも自主的に続けられる熱心さであった。

高等学校社会講座（地理）

この講座は、社会科「地理」担当の先生方40名を対象に、社会科「地理」の各領域の指導内容および教職教養に関する内容を研修し、指導力を高めることを目的として実施した。宇都宮大・朝倉隆太郎先生の「最近の地理学と地理教育の動向」、東北大・設楽寛先生の「人間と環境」などの講義、福島大名誉教授・安田初雄先生指導による野外巡検は非常に好評であった。

高等学校数学講座

講座内容は、福大教授佐藤先生〈代数学〉、東北大教授土倉先生〈確率論〉、東京理科大学教授柴田先生〈解析学〉、福大講師河野先生〈数学教育と学習心理〉など斯界専門の先生方の講義を中心として統計的推測とコンピューターについての実習を加味したものである。8月の酷暑の中で40名の先生方は熱心に研修された。

柴田先生・河野先生の講義はとて好評であった。

高等学校音楽講座

5か年計画の最終年にあたり、講座内容は例年とほぼ同じ「リコーダーの奏法とアンサンブル」「ギターの奏法」「箏の奏法」の実技研修と、これからの音楽指導内容の中核とすべく「基礎」の理論の講義が行われた。

さらに、いちばん遅れている「日本の音楽」の領域が、東芸大・小島美子講師の「日本の音楽をどうとらえるか」で理論的に裏づけされ有意義であった。

高等学校美術・工芸講座

この講座は、焼きものによる造形美の追求ということから、同一人（15名）が2回受講し、前期は「成形の研修」後期は「本焼きの研修」と一貫した内容で行う予定であったが、事情により前期が中止になった。やむなく、各自持参の成形作品による本焼きと、七宝焼き、および現場での実例に基づく「焼きもの」についての協議・討議を行い大変充実したものとなった。

高等学校保健体育講座

この講座は、高等学校保健体育科担当教員40名を対象として、保健体育科教育について研修し、指導力を高めることを目的として11月25日から4日間実施する予定であったが、事情により中止になった。講座内容として、「学習指導と体育心理学」・「体育の評価」・「運動生理学」・「複合トレーニング」・「学校体育の現状と課題」・「教材研究のすすめ方」などを予定していた。